第 113 号　2018 年 6 月 30 日

東日本大震災 復興･支援活動ニュースレター
カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL022-222-7371　Fax022-222-7378
1）義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2）支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

東日本大震災から丸７年以上が経ちましたが、今なお変わらずに被災地に関心を持ち続け、寄り添い、支援してくださる方がいらっしゃいます。今号では、大阪教会管区主催の第１回 東日本大震災応援ツアー2018（全４回とも定員のため受付終了）、高松教区カテドラルで行われました被災地報告会、カリタス石巻ベースのスタッフによる被災地巡りと新緑の花めぐり遠足についてご紹介します。

最後に、６月 18 日午前７時 58 分ころに最大震度６弱を観測した大阪府北部を震源とする地震により、亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々およびそのご家族の方々には、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く、普段の生活に戻れますように、お祈りしております。

東北から持ち帰った希望

カトリック南山教会　川西　里奈

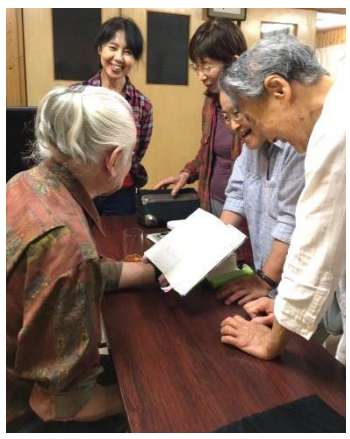
■東日本大震災応援ツアー(カリタス大船渡～南三陸ベース)への参加

東日本大震災の復興支援ツアーがあると母から聞き、久しぶりに被災地のことを思い出した。同時に、震災に対してほとんど関心がなくなっていた自分に気づき「これが風化なのか」と少し恐ろしくなった。７年もの月日が経った今、行って何かすることがあるのだろうか。そこへ行くことにどんな意味があるのか、そんな想いを抱きながら参加を決意した。

【大船渡市】かさ上げ工事の様子など、被災地の現状を肌で感じた

■心の復興とケセン語聖書

東日本大震災応援ツアーに参加したのは私と母を含めて９人。これまでに何度もこの地へ出向いては支援やボランティア活動を続けてきた熱心な方ばかりだった。大船渡ベースでは、震災当日の津波の映像を見た。これまでの生活が一瞬にして崩れ去る瞬間の人々の叫び声が、今も頭から離れない。大船渡を案内してくれたベース長の菅原圭一さんは「街が少しずつ復興を遂げているが、人々の心の復興はまだまだです」と語る。その日の夜は、あの『ケセン語訳聖書』の山浦玄嗣（はるつぐ）先生のお話を伺った。ケセン語ならぬ世間語での聖書の音読は、時代劇さながらの迫力であり、イエスを身近に感じる夜となった。



山浦先生（写真中央）を囲んで

■時を超えたキリシタンの導き

南三陸町は大船渡に比べると復興の進みは遅く、今もなお仮設住宅で暮らす人々もいる。夜の分かち合いで、南三陸ベース長の千葉道生さんから、福島の放射能汚染についても話を伺い、東北の抱える問題は実に多岐にわたっていることを知った。翌日はキリシタン 120 名の殉教地である三経塚（さんきょうづか）を巡礼し、聖歌を歌いながら山を下る。かつての殉教者たちが、この姿をきっと見ておられるだろうと信じて。

ツアーの最後には、漁業のボランティアをした。昆布を結ぶ作業をしながら、この土地の人々の暮らしに思いを馳せる。漁師の長さん（通称）には、アイスクリームや採れたての魚貝まで振る舞っていただき、身も心も温まるひとときを過ごした。「震災は起こってしまったが、仕事が忙しいのは良いことだ」と明るく話す長さんの姿には逞しさを感じた。

三経塚の十字架と献花

漁師の長さんに教わりながら昆布結び体験

■ツアーを終えて

２泊３日という短い期間だが、想像以上にたくさんの想いを持ち帰ることとなった。今もなお苦しい日々を過ごす方々、それを支える人々の存在。ここで感じたのは、悲しみだけではなく、命の力強さ、優しさ、自然の恵みという光である。「来て良かった、必ずまた行きたい」と心から思う今、その想いを伝え歩くことが、私の使命なのかもしれない。各地で地震が頻発しているなか、ほんの小さなことではあるが、隣にいる人と共に歩むこと、その連鎖が生み出す力は、きっと何より大切なこととなる。意識していなければ、小さな灯火は消えてしまう。東北での体験以来、アシジの聖フランシスコの「平和の祈り」をよく思い出す。“―主よ、慰められるよりも慰め、理解されるより理解し、愛されるよりも愛することを求めさせてください―”

最後に、このツアーを企画してくださったカリタス大船渡・南三陸ベースの方々、参加者の皆様へ心より感謝を伝えたい。

全国各地から第１回応援ツアーに参加した皆さんと千葉ベース長

高松教区で大船渡・南三陸両ベース報告会開催

高松教区サポートセンター　担当助祭　谷口　広海

大雨が予想され、開催が心配される中で、東日本大地震被災地を支援しようと大阪教会管区が運営するカリタス大船渡ベース、およびカリタス南三陸ベースによるベース支援活動報告会が、6 月 10 日（日）桜町司教座聖堂で行われました。

あの大地震と大津波による大災害からすでに７年３カ月が経過し、その記憶も薄れがちになっている今だからこそ、現在の被災地での支援活動を知ってもらう機会を設けることはとても有意義なことと確信できます。

当初、この報告会を一括してカトリック大阪教会管区としてサクラ・ファミリア教会で開催しようとの計画もありましたが、各教区からの距離的制約から、参加者の便宜等を考慮して、各教区で開催することとなり、この度の高松教区での開催となりました。

しかし、自教区で開催を計画するにしても、同様に遠方から参加するには交通費もかさみ時間もかかり、どれだけ参加者があるのかも見通せません。

そこで、教区各地区の小教区のグループから成るチャリティーコンサートと被災地物産販売を企画し、四国各地から万遍なく参加者が集まれるように工夫しました。

その効力の現れか、活動報告とチャリティーコンサートの参加者は延べ２００人を数えました。

６月 10 日（日）10 時、桜町司教座聖堂では諏訪榮治郎司教叙階を記念する「子どもと共にささげるミサ」（諏訪司教司式）に多くの信徒が参加しました。

それに引き続いて本イベントであるベース活動報告会を行いました。まず、大型スクリーンに東北大地震と大津波の記憶をたどる映像が映し出され、その記憶を再び思い起こした後、引き続きカリタス大船渡ベース長・菅原圭一氏から被災当日の津波の映像をもって報告が始まりました。

映像を見ながら各ベース長の話に耳を傾ける参加者たち

被災地の悲惨な状況を再確認し、物心両面にわたりベースとして支援に奔走する人々の映像を心に焼き付け、被災当初から現在までのベースの支援状況の報告を行っていただきました。

続いてカリタス南三陸ベースの支援状況を、ベース長を務めておられる千葉道生氏から、同様にパワーポイントを活用しながら、分かり易く報告していただきました。

同じようなベースであっても、置かれた場所、状況によって傾聴や寄り添い活動が主な活動となっている大船渡ベースと、漁業や農業への支援が不可欠な南三陸との支援活動の在り方の違いなども、参加者にとっては興味あるところとなったようです。

報告会後には、お弁当タイムを挟んでチャリティーコンサートを行いました。各小教区の信徒で構成された５つのコーラスグループと独唱、パイプオルガンの演奏の後、被災地の人々に思いを寄せながら、諏訪司教のイニシアティブによるテゼの祈りをもって、足かけ５時間にわたるイベントを締めくくりました。

冒頭に触れましたように大雨が予想され、念のため、物産販売スペースを屋外の他に、司教館エントランスにも予備の場所を備えました。しかし、雨の心配をよそに、最後まで屋外で販売することが出来、高松教区女性の会の方々の心からの奉仕のかいあって、ほとんどの物産品が買い上げられました。被災地の業者さんに喜んでいただければうれしいことこの上ありません。

最後に、この日に集まった人たちから寄せられた祈りと浄財とともに、今後も変わらぬサポートを継続したく決意を新たにしているところです。

チャリティーコンサート

被災地物産販売

カリタス石巻　新緑の花めぐりバスの旅２０１８

チーム・カリタス仙塩　畳屋丁教会　佐藤　栄美子

東北南部も梅雨入りして天気が心配な６月１３日（水）に、カリタス石巻ベースのバスの旅がありました。当日は参加するみんなの願いが通じたのか、梅雨の時期とは思えないような好天に恵まれました。

今回目指すは宮城県加美郡加美町にある「やくらいガーデン」です。参加された２７名の方々は朝から準備万端で、集合時刻にはすでにバスに乗り込み、仙台から向かったボランティアの私たち二人を待つばかりになっていました。

定刻の９時半にバスは石巻ベースを出発し、ベース職員である佐藤光典さんの運転で一路加美町を目指しました。バスの中では、司会が得意な利用者さんが大いに盛り上げてくださいました。特にくじ引きでは、あちらこちらで「ワァァ！」という歓声が上がっていました。そのほか、みなさんが得意な歌やおしゃべりで盛り上がりながら目的地へと向かいました。

バラが見頃を迎え、皆さんそれぞれに楽しまれていました

すっきり晴れた青空と新緑が心を和ませてくれる中、「やくらいガーデン」に到着しました。いまごろの季節はバラが咲きほこり、バラのやさしい香りが漂うローズロードを散策して楽しみました。十分にバラを鑑賞したあと、そろそろお腹も空いてきたので、やくらいガーデン近くの古民家を店舗としている「そば屋駒庄」でざるそばをおいしくいただきました。

参加者の皆さんは、お花以外にもそばやジェラートも楽しみました♪
いつも運転手として大活躍してくださるスタッフ佐藤さん（写真右上）

その後、近くの「やくらい土産（どさん）センター」に立ち寄り、新鮮な野菜やお土産をみなさんカゴいっぱいに買い物をして楽しみました。また、土産センターにあるジェラートがおいしいお店では、「しょうゆ」や「ずんだ」や「わさび」などの珍しい種類があり、自分のお好みのジェラートをおいしくいただきました。帰りのバスの中も、行く時と同じ様に、みんなで楽しく歌いながら無事に帰って来ることが出来ました。

今回、初めてベース主催の旅行にボランティアとして参加させてもらいましたが、何より役に立ったのが、参加者一人ひとりに渡された黄色い蝶々の形をしたかわいいブローチでした。ベースの利用者の方々が、この日のために作ってくださったそうです。いつもベースにお越しになっていて顔見知りの方も多かったのですが、当日初めてお会いする方もいらしたので、広い「やくらいガーデン」での散策やバス集合のときなどに黄色いブローチが目印となり、大変助かりました。

目印の黄色いブローチ

参加されたベース利用者のみなさんが笑顔で楽しんでいた様子を見ますと、ボランティアとして参加した私たちも充実した気持ちとなりました。これからもベースでのイベントには是非お手伝いをさせていただければと思いました。今回の旅行を準備してくださった方々と参加してくださったみなさまが、楽しい一日を無事に過ごされたことを神さまに感謝したいと思います。

やくらいガーデン入口で記念撮影　手作りの「カリタス石巻」ペナントとともに

石巻ベーススタッフによる被災地巡り

カリタス石巻ベース　　Sr. 山下 正子（聖母訪問会）

５月 18 日、石巻ベーススタッフ３人は、オープンスペースでの通常活動を休ませていただき、宮城県内の被災地巡りをいたしました。あいにく、朝から雨風の強い中、ベースを出発し、女川町、石巻市雄勝町、旧石巻市立大川小学校、南三陸町志津川、大谷海岸（気仙沼市本吉町）を通り、気仙沼教会、南三陸町歌津、登米市米川を巡り、午後４時 20 分頃に帰路につきました。

私は、2011 年 11 月から２014 年３月まで、同じ聖母訪問会のシスター3 人と米川ベース（現 南三陸ベース）の近くに家を借り、米川共同体として、米川ベースを通して南三陸町でのボランティア活動をしていました。その時は月に１度、石巻教会へフィリピン人のための日曜日のミサに来ていましたが、高速道路を利用しての往復でしたので、女川、雄勝、大川小学校などの当時の状況は知りませんでした。そのため、各地の復興状況をはっきりとはつかめませんでしたが、ただ、かさ上げされた土地と道路には驚かされました。

この被災地巡りで一番印象に残ったことは、はじめて訪れた大川小学校の被災跡です。津波で児童７４人と教職員 10 人が犠牲になった大川小学校を巡る損害賠償請求訴訟の結論はまだ出ていませんが、現場に立ってみて、突然の大津波に見舞われたとき、児童は？　教師は？とっさの判断が迫られたことでしょう。

朝、元気に登校した我が子が急に眼前からいなくなる親の気持ち。子どもたちが味わったであろう恐怖、苦痛。また、必死で教師は安全に避難させることを考えたでしょう。過去に幼児教育に携わった者として、私自身、危険が迫った状況の中で、子どもたちを守るためにどのように対処出来るだろうか、という複雑な心境で、また、亡くなられた方々への冥福を祈りながら、大川小学校を後にしました。

南三陸町志津川では、米川から桝沢仮設や平成の森仮設住宅にボランティアに行くたびに見ていた防災庁舎が、かさ上げされた土地の間に低く見え、こんなに土地が上げられたことを実感しました。

昼食をすませた後、気仙沼に向かいました。初めて訪れるというスタッフ１人とステンドグラスの美しい小さなかわいい気仙沼教会を訪問し、しばし祈った後、川崎忠紀神父様を司祭館にお訪ねし、お茶を一緒にいただきました。川崎神父様は、米川時代に大変お世話になった方で、米川共同体では「守護の天使」と呼んでいました。久しぶりの再会でとてもうれしかったです。

気仙沼教会のステンドグラス

時間の都合上、30 分ほどで辞し、次に桝沢仮設のお茶っこで手芸をして親しく交わった４人の方をお訪ねしました。皆さん、今は、桝沢仮設裏に建てられた災害公営住宅に住んでおられ、もち米のホタテご飯を準備して待っていてくださいました。お元気そうな姿に会えて本当にうれしく思いました。その後、米川で住んでいた借家の家主さんをお訪ねし、感謝のうちに石巻ベースに戻りました。

他のスタッフは、「海沿いの被災地を巡っていると改めて丸７年を過ぎ、８年目の現実の厳しさを強く感じた」また、「場所によって復興工事の速さの違いがはっきり出て複雑な気持ちになった」と話していました。ベースでは毎朝、スタッフ皆で一日も早い復興と被災者の幸せを願って祈っています。

旧石巻市立大川小学校校舎　　津波の被害を受けた跡が今も残る